

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法I						
担当教員	武藤 眞一						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	英語科の指導に関する基本的な知識と技能の習得						
授業の概要	英語科教育に関して基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上での技能の習得を図る。前期・後期とも前半は講義中心、後半は模擬授業等を中心に進める。中学校・高等学校の教材を基に教案を作成し、模擬授業やロールプレイも取り入れ実践的な指導方法を体得する。						
到達目標	教育実習や学校現場での指導に対応できる知識、考え方、基本的な指導技法を身につける。						
授業計画	<p>第1回 英語科教育法の履修にあたって</p> <p>第2回 英語科教員に求められる資質と能力</p> <p>第3回 日本における英語教育の歴史</p> <p>第4回 中学校学習指導要領のねらいと位置づけ</p> <p>第5回 高等学校学習指導要領のねらいと位置づけ</p> <p>第6回 英語科教授法の分類と特徴</p> <p>第7回 英語教育と国際理解教育</p> <p>第8回 コミュニケーション能力の育成</p> <p>第9回 テストの作成と評価の在り方</p> <p>第10回 学習指導案作成の基本</p> <p>第11回 中学校での授業の進め方</p> <p>第12回 高等学校での授業の進め方</p> <p>第13回 中学校の授業の実際</p> <p>第14回 高等学校の授業に実際</p> <p>第15回 前期のまとめと定期試験</p> <p>第16回 文字・発音・語彙の指導</p> <p>第17回 文法の指導</p> <p>第18回 Readingの指導</p> <p>第19回 Writingの指導</p> <p>第20回 Listeningの指導</p> <p>第21回 Speakingの指導</p> <p>第22回 中学校の学習指導案の作成と検討</p> <p>第23回 中学校の模擬授業1</p> <p>第24回 中学校の模擬授業2</p> <p>第25回 高等学校の学習指導案の作成と検討</p> <p>第26回 高等学校の模擬授業1</p> <p>第27回 高等学校の模擬授業2</p> <p>第28回 模擬授業の点検</p> <p>第29回 後期のまとめと定期試験</p> <p>第30回 教育実習に向けて</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業と並行して、英語教員として必要な英語力を身につける。						
授業方法	前期、後期とも前半は講義を中心に、後半は教案作成と模擬授業とその観察を中心に進める。中学校・高等学校での英語科の授業の実際を知るため、先輩の教育実習参加者による模擬授業や、中学校・高等学校での授業参観を予定している（交通費等は自己負担）。						
評価基準と評価方法	教案作成と模擬授業30%、定期試験40%、平常点（提出物、意欲、態度）30% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	<p>「新英語科教育の基礎と実践 授業力のさらなる向上を目指して」 JACET教育問題研究会編(三修社) ¥2600+税 ISBN978-4-384-04054-8</p> <p>文部科学省検定済教科書(中学校)「ONE WORLD English Course」1, 2, 3(教育出版) 文部科学省検定済教科書(高等学校)「CROWN English Series I」(三省堂)</p>						

参考書	「わかりやすい英語教育法 小中高での実践的指導」浅羽亮一ほか著(三修社) ¥2400+税 ISBN978-4-384-05554-2 「すぐれた英語授業実践 よりよい授業づくりのために」樋口忠彦ほか著(大修館書店) ¥2200+税 ISBN978-4-24521-9
-----	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法II						
担当教員	作井 恵子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2言語習得に基づいた学習理論をまなびそれを英語教授法の観点から理解実践する。						
授業の概要	英語教育において柱となるリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングといった「英語のスキル」について理論に基づいた教授法を学ぶ。						
到達目標	上記4技能の範囲の第2言語習得理論を理解する。 理論を理解したうえで、それを模擬授業を通して応用する。						
授業計画	1. 文法とは? 1 2. 文法とは? 2 3. リーディング 1 4. リーディング 2 5. リーディング 3 6. リスニング 1 7. リスニング 2 8. リスニング 3 9. スピーキング 1 10. スピーキング 2 11. スピーキング 3 12. ライティング 1 13. ライティング 2 14. 学級運営について 15. 試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	教科書の予習、模擬授業の準備・レッスンプラン作成など。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート (20%) (レッスンプラン) テスト (40%) 模擬授業 (40%) 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	英語教員のための授業活動とその分析(大喜多喜夫 著) 昭和堂						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法III						
担当教員	武藤 眞一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語科の指導に関する理論や知識及び実践的指導技法の習得						
授業の概要	英語科教育法Ⅰ、Ⅱで身につけた理論や知識をもとに、教案の作成や模擬授業を行う。英語の総合的な力を養うとともに、英語科教員としての実践的な力を養う。模擬授業の自己評価、相互評価を通して、自らの課題を見つけ、指導力向上を目指す。						
到達目標	教育実習や学校現場の指導に対応できる実践的指導法を身につける。						
授業計画	第1回 英語科指導の理論と技法の復習 第2回 中学校1年生「英語」指導案の作成と検討 第3回 中学校1年生「英語」模擬授業 第4回 中学校2年生「英語」指導案の作成と検討 第5回 中学校2年生「英語」模擬授業 第6回 高等学校「英語Ⅰ」指導案の作成と検討 第7回 高等学校「英語Ⅰ」模擬授業 第8回 英語科教育実習の実際（教材研究について） 第9回 英語科教育実習の実際（授業展開について） 第10回 英語科教育実習の実際（評価について） 第11回 英語科教育実習のまとめと今後の課題 第12回 英語科指導の総合的検討（教材研究の在り方） 第13回 英語科指導の総合的検討（授業展開の在り方） 第14回 英語科指導の総合的検討（評価について） 第15回 英語科教員になるにあたっての心構えと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	指導案の作成には十分検討を加え、模擬授業に当たっては繰り返し練習する。模擬授業後はDVDや講評を参考に自己評価する。教育実習を控え、英語の4技能に加えて、語彙・文法・語法など総合的な英語力の向上を図る。						
授業方法	各自の作成した教案について検討を加え、模擬授業を行う。それぞれの模擬授業について全員で検討・講評するとともに、撮影したDVDにより自己評価も行い、指導力向上につなげる。						
評価基準と評価方法	教案作成・模擬授業40%、定期試験30%、平常点（提出物、意欲、態度）30%						
教科書	その都度、補助資料を用意する。						
参考書	「改訂版 英語科教育実習ハンドブック」米山朝二ほか著（大修館書店）¥2,200+税 ISBN978-4-469-24467-0						

科目区分	教職課程科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期 前半	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護体験を意義深いものとするために						
授業の概要	<p>中学校教諭の普通免許状を取得するためには、介護等体験を行うことが法律によって義務付けられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することを願っている。この研究では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護、援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護等体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害を持った生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションのとり方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。</p>						
到達目標	各施設で迷惑をかけないで、充実した実習が出来ること						
授業計画	<p>第1回 制度の意義と内容  第2回 介護体験で何を学ぶか  第3回 社会福祉の意義「障害者の自立」  第4回 特別支援学校における教育  第5回 特別講師による講演  「介護の実践と留意点」  第6回 高齢者の福祉と介護  第7回 介護等体験の心得および諸注意</p> <p>学校及び施設への訪問と視察指導</p> <p>第15回 体験終了者の反省と課題発表</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	第8回から第14回までを各施設（特別支援学校、高齢者福祉施設）での7日間の実習をあてている						
授業方法	講義及び実習						
評価基準と評価方法	レポート（80%）によるが、授業への取り組みの姿勢（20%）を考慮する						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅳ						
担当教員	片平 理子・古濱 裕樹						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科教育の指導法、教材開発						
授業の概要	本講義は、家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎理解と問題意識をふまえ、これらを総合するかたちで、家庭科教師としての授業能力を高めることを目標として、家庭科教育の指導法や教材開発について具体的に学ぶ。模擬授業を省察し改善することを通して、家庭科教師としての実践力を養う。						
到達目標	家庭科教師に必要な能力を理解し、教師としての実践力をつける						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭科で育てたい力と家庭科の学習方法の特徴</li> <li>2. 家庭科の教科特性と授業展開、家庭科の指導と評価</li> <li>3. 教材研究の視点と方法</li> <li>4. 中学校・高等学校の家庭科教科書分析</li> <li>5. 教材の活用法</li> <li>6. 教材開発</li> <li>7. 衣生活領域の実践例</li> <li>8. 教材研究 1回目</li> <li>9. 保育領域の実践例</li> <li>10. 教材研究 2回目</li> <li>11. 食生活領域の実践例</li> <li>12. 教材研究 3回目</li> <li>13. 消費生活領域の実践例</li> <li>14. 教材研究 4回目</li> <li>15. 総括</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業準備						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	出席（50%）、授業中の課題や発表内容（30%）、教材用プリント・レポート（20%）						
教科書	家庭科への参加型アクション志向学習の導入 中間美砂子編著（大修館書店）、ISBN4-469-27001-6（家庭科教育法Ⅲで使用した教科書）						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校栄養教育実習						
担当教員	遠藤 牧子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	小・中学校の教育現場での様々な体験を総合的に修得する。						
授業の概要	小・中学校の教育現場における教育実習では、学校教育の意義や食に関する指導の重要性を理解する。また児童・生徒の実態を把握し、理解を深める。						
到達目標	児童・生徒の実態を把握し、理解を深めて、栄養教諭としての必要な知識・技能・態度を修得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「学校栄養教育実習の研究」を履修し、内容を習得する。</li> <li>2. コーディネーターとしての栄養教諭の職務内容を確認する。</li> <li>3. 定められた期間、受け入れられた学校で教育実習に参加する。</li> <li>4. 実習記録をまとめ、提出する。</li> <li>5. 実習終了後、報告会で発表し、今後の検討課題を整理し、まとめる。</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	文部科学省の「食に関する指導の手引」を理解する						
授業方法	教育実習を主とする						
評価基準と評価方法	平常点等（100） 評価内訳：実習校における実習成績評価（40）、実習記録ノートの評価（50）、その他提出物（10）						
教科書	改訂栄養教諭論（金田雅代編著）						
参考書	文部科学省「食に関する指導の手引」（平成22年3月改訂）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校栄養教育実習の研究						
担当教員	遠藤 牧子・加藤 巡一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	実り豊かな教育実習をめざして						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまで学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、および教職科目・一般教育科目の理論、知識を実際の教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究は学校栄養教諭の役割を再認識し、指導力を向上させ、教育者としての使命感と自覚を深めることを目標としている。自ら課題を設定し問題意識を持つことが大切であり、それらを踏まえて様々な視点から探求する。						
到達目標	栄養教諭としての必要な知識、技能、態度を修得する。						
授業計画	<p>概論</p> <p>第1回 栄養教育実習の意義と課題</p> <p>第2回 授業展開の実際</p> <p>第3回 指導案の書き方</p> <p>第4回 教案に基づいた模擬授業</p> <p>第5回 栄養教諭による講義</p> <p>第6回 生徒指導</p> <p>基本指導</p> <p>第7回 食に関する年間指導計画と研究授業の関係について</p> <p>第8回 実習ノート、お礼の手紙の書き方について</p> <p>課題指導</p> <p>第9回 指導案の検討及び授業の流れについて（板書計画を含む）</p> <p>第10回 演習、授業反省（教材研究、板書計画、指導案の検討を含む）</p> <p>第11回 演習、授業反省（教材研究、板書計画、指導案の検討を含む）</p> <p>第12回 演習、授業反省（教材研究、板書計画、指導案の検討を含む）</p> <p>第13回 演習、指導案の検討、教材研究、教材作成</p> <p>第14回 演習、指導案の検討、教材研究、教材作成</p> <p>第15回 栄養教育実習を振り返って一体験報告</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	学校栄養教育実習にむけて、多方面からの食に関する情報を収集しておく						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	提出物（10）、指導案（50）、日課表（30）、演習記録および反省（10）						
教科書	「教育実習の研究ノート」（本学教務部発行） 改訂栄養教諭論（金田雅代編著）						
参考書	参考資料 文部科学省「食に関する指導の手引」（平成22年3月改訂）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校栄養指導論I						
担当教員	山北 人志						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養指導論 理論と実際の研究						
授業の概要	生涯にわたり健康な生活を送るためには、幼児期から小・中学生の頃までに望ましい食習慣を身につけておくことが重要である。しかし、現代の子ども達を取り巻く食生活の乱れは年々深刻化している。本講座では児童・生徒を取り巻く食生活の社会的背景、課題や問題点などを理解し、栄養教諭としての社会的使命、役割、職務内容、発達に応じた指導について学ぶ。さらに、学校給食の意義や役割、食生活に関する歴史的及び文化的な事項を交えて学校給食についての理解を深める。また、児童・生徒の栄養の指導や管理に係わる法令制度について理解する。						
到達目標	本科目は「栄養に係わる教育に関する科目」である。教育職員として必要な資質、能力を修得することを目標とする。児童・生徒を取り巻く社会的背景、課題や問題点などを理解し、栄養教諭としての使命、役割、食に関する指導の専門性を認識する。また教育者として必要な知識・技能および実践する能力を修得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義</li> <li>3. 栄養教諭の制度・役割・職務内容(1)</li> <li>4. 栄養教諭の制度・役割・職務内容(2)</li> <li>5. 学校給食の意義・役割(1)</li> <li>6. 学校給食の意義・役割(2)</li> <li>7. 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる法令・制度</li> <li>8. 食生活に関する歴史的・文化的事項</li> <li>9. 学校給食の歴史と食文化の変遷</li> <li>10. 幼児・児童・生徒の栄養に係わる諸課題</li> <li>11. 児童・生徒の栄養の指導及び管理の現状と課題</li> <li>12. 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる社会的事項</li> <li>13. 子どもの発育・発達</li> <li>14. 発達に応じた食に関する指導</li> <li>15. 全体講義のまとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	本講義開始までに栄養教諭とは何か、事前に調べておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験期間中に試験を実施。 50点</li> <li>・小テスト 35点 ・授業への積極的参加度 15点</li> </ul>						
教科書	三訂 栄養教諭論 理論と実際 金田雅代編著 建帛社						
参考書	「食に関する指導の手引」文部科学省 -第一次改訂版-						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校栄養指導論II						
担当教員	山北 人志						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養指導論 理論と実際研究						
授業の概要	学校栄養指導論Iで学習した「栄養教諭の役割・職務内容」「幼児・児童・生徒の栄養に係わる諸課題」「食生活に関する歴史的・文化的事項」を踏まえて、本講座では「児童・生徒等に対する食に関する指導の方法」について学ぶ。まず、食に関する指導の基本計画となる、食に関する指導の全体計画を作成する。次に、各教科、領域での指導、個別指導、家庭、地域との連携をはかりながら実施する食に関する指導の方法を学ぶ。さらに、学習指導案の作成、実践演習を通して指導力の向上を図る。						
到達目標	本科目は「栄養に係わる教育に関する科目」である。教育職員として必要な資質、能力を修得することを目標とする。学校教育において、食に関する専門的な知識・技能、および教育者としての基礎的な技能を取得し、食に関する専門的な教員としての指導力を修得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「食に関する指導」の全体計画</li> <li>2. 「食に関する指導」の全体計画</li> <li>3. 「給食時間」における食に関する指導</li> <li>4. 教科における食に関する指導「家庭科、技術・家庭科」</li> <li>5. 教科における食に関する指導「体育科、保健体育科・その他」</li> <li>6. 「生活科」「総合的な学習の時間」における食に関する指導</li> <li>7. 「道徳・特別活動・その他の教科」における食に関する指導</li> <li>8. 食物アレルギー等の個別指導</li> <li>9. 学習指導案の作成(1)</li> <li>10. 学習指導案の作成(2)</li> <li>11. 学習指導案の発表、相互評価(1)</li> <li>12. 学習指導案の発表、相互評価(2)</li> <li>13. 模擬授業、指導効果の評価</li> <li>14. 学校・家庭・地域が連携した食に関する指導</li> <li>15. 全体講義のまとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	第10回 食に関する学習指導案作成に際し、児童の食生活の実態、問題点等について、事前に資料を収集しておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験期間中に試験を実施 50点</li> <li>・平常点等 50点 (配点内訳: 指導案 20点、全体計画 10点、実践演習 5点、授業への積極的参加度 15点)</li> </ul>						
教科書	三訂 栄養教諭論 理論と実際 金田雅代編著 建帛社						
参考書	「食に関する指導の手引」文部科学省 一第一次改訂版-						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	樋口 とみ子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	教育課程の編成						
授業の概要	学校教育において何をいつどのように教え学ぶのかという問いに関わるのが教育課程（カリキュラム）である。本講義では、教育課程の編成に関する基本的な概念を検討したうえで、日本における教育課程の歴史の変遷について考察する。教育課程を問うとは、学校の教育内容の選択・組織という視点をもとに、学校教育のあり方そのものを問いなおすことでもある。						
到達目標	学校の教育課程の編成に関する基本的な理論を理解することをめざす。具体的には、以下の2つを主な内容として取り上げる。1. 教育課程の編成原理、2. 日本における教育課程の歴史の変遷						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程とは何か</li> <li>2. 教育課程の編成原理（学問中心主義と子ども中心主義）</li> <li>3. 教育課程の構造1（教科学習と総合学習）</li> <li>4. 教育課程の構造2（学力とは何か）</li> <li>5. 教育課程の構造3（教科学習と生活指導）</li> <li>6. 学習指導要領に見る教育課程の変遷1（戦後初期）</li> <li>7. 学習指導要領に見る教育課程の変遷2（教育内容の現代化）</li> <li>8. 学習指導要領に見る教育課程の変遷3（ゆとりと生きる力）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味・関心をもった内容について、授業のなかで紹介する参考書をもとに理解を深めてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	参加状況30%、レポート70% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	使用しない。プリント資料を配布する。						
参考書	必要に応じて授業のなかで紹介する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育経営学						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの学校に求められるもの						
授業の概要	生徒が共に学び、共に成長できる学校教育の実践をめざし、学校教育目標、学校の組織・運営、教職員の協力・連携等から学校の経営の在り方について考察する。また、戦後の教育の歩みと主要課題を社会的変動の中で明らかにし、見え難い今後の教育の方向や課題を探り、少子高齢時代、生涯学習時代、高度情報時代の中での教育経営の在り方について探求する。また、教育経営の基礎となる教育関係法規について、教育行政や教育制度からの視点を加え学習を深める。						
到達目標	学校の現状と課題を理解し、教育経営を法規上で解釈することができる						
授業計画	第1回 教育経営の概説 第2回 学校経営と教育目標 第3回 学校の組織の構築（KJ法） 第4回 発表と検討 第5回 学校の組織と経営の実態 第6回 戦前、戦後の教育制度 第7回 義務教育制度 第8回 現代の諸課題 第9回 教育法規の基礎と概説 第10回 学校の管理運営と法規 第11回 学習指導要領と法規 第12回 教職員のサービスと法規 第13回 生徒指導と法規 第14回 教育経営のまとめ 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習と法規演習						
授業方法	講義とグループ討議						
評価基準と評価方法	定期試験を主資料（80%）として、発表の成果（10%）や授業への取り組み姿勢（10%）を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう						
教科書	教育原理 教師養成研究会編（学芸図書）						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析する						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代的な学校教育制度の歴史と成り立ちを説明する。</li> <li>2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの観点から理解させる。</li> <li>3. カウンセリングマインドをスキルと背景から考えさせる。</li> <li>4. 教育評価をめぐるいくつかの類型論を比較検討させる。</li> <li>5. 教育そのものの常識と定義の違いを明らかにする。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生が学習した内容を教育学の基本的概念で反省的に振り返ること。</li> <li>2. 教育学の理論のうち保育や教育に役立つ部分を学生が活用できること。</li> </ol>						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第2回 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づいたズレと理由は？ 第3回 高校と大学の違い(2)：教育制度と進学率の歴史 第4回 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 第5回 学校化社会の戦略(1)：帰属原理から業績原理へ 第6回 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 第7回 学校化社会の戦略(3)：学校は塾と授業で勝負できるか？ 第8回 カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンターの実践 第9回 カウンセリングマインド(2)：中国の小学校から振り返って 第10回 教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？ 第11回 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括という三段階 第12回 「教育」の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 第13回 「教育」の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 第14回 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 第15回 レポートの返却と成績評価の還元						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書を使いますが各自でも読んでください。</li> <li>2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は講義を中心に進めます。</li> <li>2. 後半は活動を取り入れます。</li> <li>3. 途中で映像も折り込みます。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点40点（コメントカード、レポート発表など）</li> <li>2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）</li> <li>3. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。</li> </ol>						
教科書	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年、ISBN:978-4-480-42460-0						
参考書	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析する						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代的な学校教育制度の歴史と成り立ちを説明する。</li> <li>2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの観点から理解させる。</li> <li>3. カウンセリングマインドをスキルと背景から考えさせる。</li> <li>4. 教育評価をめぐるいくつかの類型論を比較検討させる。</li> <li>5. 教育そのものの常識と定義の違いを明らかにする。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生が学習した内容を教育学の基本的概念で反省的に振り返ること。</li> <li>2. 教育学の理論のうち保育や教育に役立つ部分を学生が活用できること。</li> </ol>						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第2回 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づいたズレと理由は？ 第3回 高校と大学の違い(2)：教育制度と進学率の歴史 第4回 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 第5回 学校化社会の戦略(1)：帰属原理から業績原理へ 第6回 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 第7回 学校化社会の戦略(3)：学校は塾と授業で勝負できるか？ 第8回 カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンターの実践 第9回 カウンセリングマインド(2)：中国の小学校から振り返って 第10回 教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？ 第11回 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括という三段階 第12回 「教育」の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 第13回 「教育」の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 第14回 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 第15回 レポートの返却と成績評価の還元						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書を使いますが各自でも読んでください。</li> <li>2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は講義を中心に進めます。</li> <li>2. 後半は活動を取り入れます。</li> <li>3. 途中で映像も折り込みます。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点40点（コメントカード、レポート発表など）</li> <li>2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）</li> </ol>						
教科書	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年、ISBN:978-4-480-42460-0						
参考書	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育指導論						
担当教員	赤津 玲子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	カウンセリングから学ぶコミュニケーションスキル						
授業の概要	学校には様々な事情を持つ児童・生徒が集まっており、教師は個別に適切な支援を行うことが求められている。そのためには、様々な場面において相手との信頼関係を作ることが必要である。本講義では、様々なカウンセリング理論や言語的・非言語的なコミュニケーションについて学び、良好な人間関係を構築するための基本的なスキルを身につける。						
到達目標	信頼関係を作るためのコミュニケーションスキルを獲得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 コミュニケーション (1) 基礎 第3回 コミュニケーション (2) 応用 第4回 コミュニケーション (3) 演習 第5回 コミュニケーション (4) グループ発表 第6回 様々なカウンセリング (1) フロイトの精神分析やユングの分析心理学 第7回 様々なカウンセリング (2) ロジャーズの来談者中心療法 第8回 様々なカウンセリング (3) 認知行動療法、ブリーフセラピー 第9回 学校現場に必要な精神医学的問題 第10回 小学校における事例 児童の不応問題 第11回 小学校における事例 ケース会議や他機関との連携 第12回 中学校における事例 保護者や生徒への対応 第13回 中学校における事例 保護者へのコンサルテーション 第14回 学校現場で使えるリラクゼーション技法 第15回 総括とテスト						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業ごとに講義概要のプリントを配布しますので、要点をまとめるようにしてください。						
授業方法	講義とロールプレイ演習						
評価基準と評価方法	平常点 30% (出席状況、グループディスカッションの発表や発言による授業参加) レポート 30% 学期末テスト 40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	必要に応じて授業内で提示します。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育の心理学						
授業の概要	<p>教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者により影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、いじめ問題等の事柄について詳しく検討する。また、幼児から青年までの発達障害について、知能や人格特徴等の単一の要因によるのではなく、心身の相互作用によることを学習し、総合的に理解することを目指す。一例として、言葉の発達の遅れが知能面のみに起因するのではなく、構音器官の生理的な要因や聴覚の問題、そして二次的な心理的問題等を含んでいることがあげられる。そして通常学級においても、広範囲な子供達を対象にした心身両面にわたる特別支援教育のあり方をさぐる。視聴覚教材を併用する。</p>						
到達目標	<p>教育活動に必要な以下の心理学的知識を身につける。①認知発達、②学習心理学、③情緒発達、④社会性の発達、⑤いじめ等の諸問題への対処法、⑥発達アンバランス（発達障害）</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わかる喜び学ぶ楽しさ</li> <li>2. エリクソンの生涯発達論</li> <li>3. ピアジェの認知発達</li> <li>4. 思春期・青年期</li> <li>5. 社会性の発達と「いじめ」</li> <li>6. 自己調整学習①</li> <li>7. 自己調整学習②、応用、記憶</li> <li>8. 自己調整学習③、学習理論</li> <li>9. 不適応、不登校</li> <li>10. 教室での発達障害</li> <li>11. 知能とはなにか1</li> <li>12. 知能テスト</li> <li>13. 生徒の心理アセスメント</li> <li>14. 教師の心理、リーダーシップ、テスト実施</li> <li>15. 学級集団 答案返却と解説、再テスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の予告テーマに沿った文献調べ（インターネット等を含む）と、授業中にとったノートの復習						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材利用						
評価基準と評価方法	<p>平常点（30%）と学期末の筆記試験（70%）により評価を行う。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点を考慮する。 第1回テストで不合格だった人は再テストを受験できる。</p>						
教科書	サブノート形式のプリントを出来るだけ配布します。						
参考書	タイトルに「教育心理学」が含まれる書物						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	竹田 美知						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	これまでの教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、各々、実習校において授業やクラス運営などの実習を行う。						
授業の概要	実習に際しては、十分に教材研究をし、よく授業計画を練って、真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力してほしい。なお実習期間中は、本学教務部発行の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、日々の反省を翌日に生かすこと。						
到達目標	実習授業の教材研究の成果を生かし、授業計画にも基づき授業が担当できるようになるとともに、生徒指導や学習指導に熱心に取り組めること						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の事前指導（実習の心得）</li> <li>2. 教育実習の事前指導（実習の注意・指導）</li> <li>3. 実習校訪問（挨拶）</li> <li>4. 実習校訪問（打ち合わせ。諸注意）</li> <li>5. 実習校でのオリエンテーション（学校の概要・特色）</li> <li>6. 実習校担当教諭との打ち合わせ（指導方針の確認）</li> <li>7. 教育実習（観察・見学）</li> <li>8. 教育実習（教材研究・学習指導案の作成）</li> <li>9. 教育実習（学習指導・生徒指導）</li> <li>10. 教育実習（『教育実習記録』への記入に仕方）</li> <li>11. 研究授業</li> <li>12. 研究授業の反省</li> <li>13. 事後指導（実習終了後の反省やまとめ）</li> <li>14. 事後指導（教育実習記録の記入）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教材研究や、授業計画など						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告（80%）、及び「教育実習記録」（20%）に基づく。						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	田中 まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入させ、実習の充実を図る。						
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、充実した実習を行う。						
授業計画	<p>本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには記せないが、以下のような計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等)</li> <li>・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験)</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける。</li> <li>・研究授業(教育実習の総仕上げの授業)</li> <li>・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける)</li> <li>・事後研究 (実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容)	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価(50%)、「教育実習記録」(50%)						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	武藤 眞一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	学校現場で教科指導、生徒指導を実地に学び、教員としての資質、能力を習得する。						
授業の概要	教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する。実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究や授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの校務も体験する。毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習に生かす。						
到達目標	学校現場で教科指導、生徒指導、学級指導の実際を身につけ、様々な場面で生徒に対応できるようにする。						
授業計画	<p>授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前指導（実習の心得、諸注意等）</li> <li>・実習校訪問（実習校への挨拶、打合せ、心得、担当クラス・教材の確認等）</li> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認、指導教諭との打ち合わせ等）</li> <li>・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入等）</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業反省会（研究授業後の自己評価、実習校教員等からの指導・助言等）</li> <li>・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等）</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒に話す材料や指導に役立つ資料等を常に収集し、実習に生かせるよう努める。授業はもとより学校生活全体を通して、先生方やほかの実習生からも積極的に学び、資質の向上に努める。						
授業方法	各実習校における実習						
評価基準と評価方法	各実習校からの「教育実習成績報告」および「教育実習記録」に基づく						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	竹田 美知						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	これまでの教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、各々、実習校において授業やクラス運営などの実習を行う。						
授業の概要	実習に際しては、十分に教材研究をし、よく授業計画を練って、真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力してほしい。なお実習期間中は、本学教務部発行の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、日々の反省を翌日に生かすこと。						
到達目標	実習授業の教材研究の成果を生かし、授業計画にも基づき授業が担当できるようになるとともに、生徒指導や学習指導に熱心に取り組めること						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の事前指導（実習の心得）</li> <li>2. 教育実習の事前指導（実習の注意・指導）</li> <li>3. 実習校訪問（挨拶）</li> <li>4. 実習校訪問（打ち合わせ。諸注意）</li> <li>5. 実習校でのオリエンテーション（学校の概要・特色）</li> <li>6. 実習校担当教諭との打ち合わせ（指導方針の確認）</li> <li>7. 教育実習（観察・見学）</li> <li>8. 教育実習（教材研究・学習指導案の作成）</li> <li>9. 教育実習（学習指導・生徒指導）</li> <li>10. 教育実習（『教育実習記録』への記入に仕方）</li> <li>11. 研究授業</li> <li>12. 研究授業の反省</li> <li>13. 事後指導（実習終了後の反省やまとめ）</li> <li>14. 事後指導（教育実習記録の記入）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教材研究や、授業計画など						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告（80%）、及び「教育実習記録」（20%）に基づく。						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	田中 まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入させ、実習の充実を図る。						
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、充実した実習を行う。						
授業計画	<p>本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには明記できないが、以下のような計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等)</li> <li>・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験)</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける。</li> <li>・研究授業(教育実習の総仕上げの授業)</li> <li>・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける)</li> <li>・事後研究 (実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容)	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価(50%)、「教育実習記録」(50%)						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	武藤 眞一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学校現場で教科指導、生徒指導を実地に学び、教員としての資質、能力を見極める。						
授業の概要	教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する。実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究や授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの校務も体験する。毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習に生かす。						
到達目標	学校現場で教科指導、生徒指導、学級指導の実際を身につけ、様々な場面で生徒に対応できるようにする。						
授業計画	<p>授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前指導（実習の心得、諸注意等）</li> <li>・実習校訪問（実習校への挨拶、打合せ、心得、担当クラス・教材の確認等）</li> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認、指導教諭との打ち合わせ等）</li> <li>・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入等）</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業反省会（研究授業後の自己評価、実習校教員等からの指導・助言等）</li> <li>・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等）</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒に話す材料や指導に役立つ資料等を常に収集し、実習に生かせるよう努める。授業はもとより学校生活全体を通して、先生方やほかの実習生からも積極的に学び、資質の向上に努める。						
授業方法	各実習校における実習						
評価基準と評価方法	各実習校からの「教育実習成績報告」および「教育実習記録」に基づく						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	竹田 美知・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に参加するにあたって、実習校で何をどのように学んできたいのか、自ら課題を課し、問題意識を持って学んでいく。						
授業の概要	教育の理論と実践を結びつけるをいかに図るか、そこからさらに新たな問題を自ら発見する。単なる知識や教育技術を学ぶだけではなく、その土地に根ざし、その人々に支えられている地域の教育力を理解する。						
到達目標	教育実習に先立ち、教科に必要な知識を身につけるとともに授業にどのように展開するかというスキルを身につける。実習校の生徒の状況を把握し、よりよい生徒指導・学習指導ができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義と課題</li> <li>2. 教育実習の日々</li> <li>3. 生徒指導</li> <li>4. 教育実習生の授業（家庭科における授業の在り方）</li> <li>5. 教科指導（家庭科における教科指導）</li> <li>6. 先輩に聞く</li> <li>7. 授業展開の実際（家庭科における授業展開の実際）</li> <li>8. 教師の在り方と実践</li> <li>9. 教育実習を終えて</li> <li>10. 教育活動の諸課題</li> </ol> 第1回、2回、3回、6回、8回、10回は加藤先生、第4回、5回、7回、9回は竹田が担当する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習校との連絡、見学・教材研究・学習指導案の研究						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	田中 まき・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習の諸課題についての研究						
授業の概要	教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深める。これまで教職課程の種々の科目で学んできた内容を振り返り、自ら課題を設定し、問題意識を持って、実り豊かな教育実習とするために、実習の準備をし、さらに、実習後には、その反省や自己分析、また教育の現場における諸問題の研究を深める。						
到達目標	教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深める。						
授業計画	<p>第1回 教育実習の意義と課題  第2回 教育実習の日々  第3回 生徒指導  第4回 教育実習生の授業（国語科における授業の在り方）  第5回 教科指導（国語科における教科指導）  第6回 先輩に聞く  第7回 授業展開の実際（国語における授業展開の実際）  第8回 教師の在り方と実践  第9回 教育実習を終えて  第10回 教育活動の諸課題</p> <p>第1, 2, 3, 6, 8, 10回は加藤先生、第4, 5, 7, 9回は田中が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	「教育実習の研究ノート」のレポート 90% 本授業への取り組み 10%						
教科書	特になし。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	武藤 眞一・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	英語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	<p>第1回 教育実習の意義と課題  第2回 教育実習の日々  第3回 生徒指導  第4回 教育実習生の授業（英語科における授業の在り方）  第5回 教科指導（英語科における教科指導）  第6回 先輩に聞く  第7回 授業展開の実際（英語における授業展開の実際）  第8回 教師の在り方と実践  第9回 教育実習を終えて  第10回 教育活動の諸課題</p> <p>第1, 2, 3, 6, 8, 10回は加藤先生、第4, 5, 7, 9回は武藤が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	「教育実習の研究ノート」の提出とその内容50%、授業態度（提出物、意欲、態度）50%						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育方法論						
担当教員	木村 裕						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	授業づくりの基礎・基本						
授業の概要	まず、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価など、授業づくりに必要な基本的な知識と技術を学ぶ。次に、実践事例の分析を行い、先に学んだ事項が実践にどのように具体化されているのかを検討する。以上をふまえて最後に、各自が学習指導案を作成し、受講生同士の相互検討を通してよりよいものへと改善していく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業づくりに必要な基本的な知識と技術を身につけることができる。</li> <li>* 身につけた知識と技術を使って、他者の実践を検討することができる。</li> <li>* 授業づくりに必要な基本的な知識と技術に基づいて、学習指導案を作成することができる。</li> <li>* 他者と議論をし、自身の学習指導案を改善することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要の説明／「よい授業」とはどのような授業だと考えるか 第2回 授業の構成要素（1）：教育目標・教材・教授行為・学習形態の概要と、実践に生かす際の留意点 第3回 授業の構成要素（2）：教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点 第4回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材のあり方と活用方法 第5回 教育実践事例の検討（2）：討論を取り入れた授業のあり方 第6回 教育実践事例の検討（3）：ワークショップ型の授業のあり方 第7回 教育実践事例の検討（4）：探究型の授業のあり方（情報機器の活用方法を含む） 第8回 特別支援教育：特別な教育的ニーズを持つ子どものための授業づくり 第9回 学習環境の工夫：効果的な学習を実現するための環境づくり 第10回 日本の授業スタイル再考：日本の学校教育における授業スタイルの特徴 第11回 学習指導案づくり（1）：学習指導案をつくる際の留意点／学習指導案の作成 第12回 学習指導案づくり（2）：学習指導案の作成（前回の続き） 第13回 学習指導案検討会：互いの学習指導案の検討と改善 第14回 子どもとの向き合い方：教師として子どもと向き合い、教育実践を進める際の留意点 第15回 まとめと講義全体のふりかえり：講義内容の復習とポイントの確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前時に行う予告に従い、次時の授業の準備を行うこと。 授業後学習：授業内容をふりかえり、要点の整理を行うこと。また、復習の過程で質問事項が出た場合には、次の授業で質問することによって、授業内容の確実な定着をめざすこと。						
授業方法	講義（ただし、グループ活動などの演習的要素を含む）						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 講義中に提出してもらったワークシートや小レポートなどによる平常点50%、最終レポート50%とし、総合的に判断する。</li> <li>* 5回以上欠席した場合には単位認定は行わない。</li> <li>* 「意欲」については、講義への参加の様子やワークシートなどの完成度を中心に評価する。</li> <li>* 「知識」については、小レポートや最終レポートの完成度を中心に評価する。</li> <li>* 「適性」については、講義への参加の様子や提出物の完成度を中心に、総合的に評価する。</li> </ul>						
教科書	使用しない。講義中に適宜資料を配布する。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 『よくわかる授業論』田中耕治編、ミネルヴァ書房、ISBN:4623043320</li> <li>* 『時代を拓いた教師たち―戦後教育実践からのメッセージ』田中耕治編著、日本標準、ISBN:4820802569</li> <li>* 『時代を拓いた教師たちⅡ―実践から教育を問直す』田中耕治編著、日本標準、ISBN:4820804227</li> <li>* 『教育方法学』佐藤学、岩波書店、ISBN:4000260057</li> </ul> その他の参考書や参考資料については、講義中に適宜紹介する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職総合演習						
担当教員	加藤 巡一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子ども達の豊かな将来のために						
授業の概要	<p>これからの時代を担う子供たちの教育に携わろうとする者は、世界的に行き詰まりをみせる環境問題やわが国の抱える深刻な少子・高齢化問題等について理解を深め、子供たちに様々なヒントを提供し、自他の生命と人権の尊重を軸にして適切に指導することができるような資質能力を育てなければいけない。教職を目指す学生はこのことを踏まえつつ、諸課題のうちいくつか選択した課題（例えば地球温暖化、食料、エネルギー、民族、宗教、家庭のあり方、福祉、医療、食文化、マスメディア、ストレス等）についてグループを構成し、各種資料や、関係施設の訪問等を活用して情報を集め、ディスカッションやディベートを通じて互いの考えや意見を出し合い、考察を深めていく。最後にまとめたものをグループまたは個人ごとに発表する。その過程を大切に、現実の社会の状況や課題を適切に理解するとともに、児童・生徒に今何をすべきかを提案し、その指導方法を体得する。</p>						
到達目標	ディベート等を通して自分の意見が言えること。子ども達が直面する様々な課題について理解を深めること						
授業計画	<p>第1回 教職総合演習の概論  第2回 各論（人権に関わる諸課題）  第3回 関心のある課題別でのグループ分け  第4回 ディベートの目的および方法  第5回 ディベート（1）  第6回 ディベート（2）  第7回 各論（世界の水をめぐる課題）  第8回 課題別グループ研究  第9回 研究発表と質疑応答（1）  第10回 研究発表と質疑応答（2）  第11回 研究発表と質疑応答（3）  第12回 各論（これからの生き方）  第13回 研究発表と質疑応答（4）  第14回 研究発表と質疑応答（5）  第15回 教職総合演習のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表等ための課題学習						
授業方法	講義、研究発表、ディベート等						
評価基準と評価方法	課題発表（70%）、レポート等（20%）、授業への取り組みの姿勢（10%）による						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職入門						
担当教員	武藤 眞一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教職を目指して歩み出そう						
授業の概要	これまでの生徒・学生の立場から、教員の立場に立って学校教育に係る諸問題をとらえ直し、学校教育の現状や教員に求められる資質や能力を理解する。また、自分が教員としての適性を持っているか、どうすれば教員にふさわしい資質や能力を身につけることができるかを考察する。						
到達目標	学習指導や生徒指導の基本的な理論や技法と学校教育に係る諸課題への対応法を習得するとともに、学校運営や学級運営の実際を理解し、自らの教員としての資質や能力を身につけること。						
授業計画	第1回 教職課程で学ぶということ 第2回 教員に求められる資質と能力 第3回 生徒と教員が抱える諸問題 第4回 教科指導（学習指導）の在り方 第5回 生徒指導・進路指導の在り方 第6回 問題行動・不登校・発達障害の理解と対応 第7回 学校運営と校務分掌 第8回 学級運営の在り方 第9回 道徳・総合的な学習の時間・特別活動の指導 第10回 家庭・地域・関係機関との連携 第11回 日本の教育制度と教員養成の歴史 第12回 教員の地位と身分 第13回 教育課程の編成と学習指導要領 第14回 学校教育に係る法制度 第15回 まとめ（今後の教職課程履修に向けて）、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	一般教養、教職教養と各自の専門科目の学習に取り組むこと。 教育に係る新聞記事やニュースの関心を持ち、自分の考えをまとめること。						
授業方法	講義およびグループ討議・発表を中心に進める。						
評価基準と評価方法	試験（40%）、提出物・授業中の発表（30%）、授業態度（関心・意欲・態度30%） 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	毎時間プリントを配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）ISBN978-4-8278-1461-3 ¥244 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）ISBN978-4-8278-1478-1 ¥588 「改定新版 教職入門 教師への道」吉田辰雄・大森正編著（図書文化）ISBN978-4-8100-9311-7 ¥1890						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教師論						
担当教員	岡本 武利						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「子ども、保護者、地域から信頼される教師像を追究する。」						
授業の概要	<p>先ず、教育の移り変わりを熟知し、現代教師の実態を把握しながら、教師改革の視点を探る。  また、教師としての好ましい資質を、多方面から捉え、信頼される教師を目指す意欲を高める。  さらに、理論と現実の融和を図り、確固たる教育観を身に付ける。</p>						
到達目標	今、必要な教師の資質を学び、子ども・保護者・地域から信頼される教師像を探る。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション : 講義内容・専門職としての教師像  第2回：教育の動向 : 教育の変遷を知り、今、必要な教育内容の把握  第3回：教師の実態 : 研修、服務などから、教師の実態把握  第4回：子どもの実態 : 体験不足・孤独症候群等の子どもの実態と子ども本来の力  第5回：子どもに付けたい力 : レインボープランとしての七つの力  第6回：地域の要望 : 一般市民の教師への要望  第7回：学習指導（1） : 子どもが課題解決を図る授業  第8回：学習指導（2） : 指導と評価の一体化  第9回：生徒指導 : 親身に取り組む生徒指導  第10回：教科外指導 : 防災教育  第11回：各校種の実態 : 各校種の実態把握  第12回：教師の資質 : 教師にふさわしい資質  第13回：教育観（1） : 教育観を持つ  第14回：教育観（2） : 教育観の交換会  第15回：教育観（3） : 教育観の再考</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビなどの情報機関から、教育に関する情報を入手しておく。						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	<p>平常点（授業への参加度・小テスト） 40%  演習点（提出物・資料整理） 30%  レポート点（信頼される教師像を描けているか） 30%  意欲（参加型の授業に応じて、積極的に発言ができる）  知識（教職に関する一般的な知識に加え、教育用語が理解できる）  適性（あいさつ文作成・教育実習のビデオ視聴に興味・関心を持つ）  履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。</p>						
教科書							
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 総則編  教育六法</p>						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法I						
担当教員	田中 まき						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	国語科教育の理論の習得と授業演習						
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、国語科教育のために、受講生の国語力を向上させるべく、小テストを重ねる。						
到達目標	国語科教育の意義、目標、方法等の理論と指導法の習得						
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 国語科教育の意義についての講義</p> <p>第2回 国語科教育の目標についての講義</p> <p>第3回 国語科に関する教育法規についての講義</p> <p>第4回 学習指導要領についての講義</p> <p>第5回 コミュニケーション力養成の演習</p> <p>第6回 プレゼンテーション力養成の演習</p> <p>第7回 教材研究と授業の展開の立案についての講義</p> <p>第8回 教材研究と授業の展開の立案についての演習</p> <p>第9回 学習指導案作成の講義</p> <p>第10回 学習指導案作成の演習1</p> <p>第11回 学習指導案作成の演習2</p> <p>第12回 授業展開の研究1</p> <p>第13回 授業展開の研究2</p> <p>第14回 国語力養成の演習1</p> <p>第15回 国語力養成の演習2</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 国語科授業のあり方についての講義</p> <p>第2回 評論教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第3回 評論教材の模擬授業1</p> <p>第4回 評論教材の模擬授業2</p> <p>第5回 小説教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第6回 小説教材の模擬授業1</p> <p>第7回 小説教材の模擬授業2</p> <p>第8回 詩歌教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第9回 詩歌教材の模擬授業1</p> <p>第10回 詩歌教材の模擬授業2</p> <p>第11回 古文教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第12回 古文教材の模擬授業1</p> <p>第13回 古文教材の模擬授業2</p> <p>第14回 表現指導のあり方についての講義</p> <p>第15回 国語科教育についてのまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教員を目指す者として、国語力養成のための勉強を重ねる。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	『国語科指導法の実践と資料』（双文出版）編著者 大柳勇治・堀江忠道・山本伸二 ISBN978-4-88164-088-3						

参考書	
-----	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法II						
担当教員	森 美智代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	国語科単元学習の授業づくり						
授業の概要	国語科教育に関する理論的な基礎知識とその実践的展開力を養うことを主な目的とする。個々に学習指導案を作成し、模擬授業を実施・検討を行うことで、国語科授業づくりのための素養を身につける。						
到達目標	国語科の教育内容、教材分析、教育方法を理解し、国語科の学習指導計画を作成できること。						
授業計画	第1回 ガイダンス（目的と概要） 第2回 国語科教育の歴史（1）戦前 第3回 国語科教育の歴史（2）戦後 第4回 国語科教育の内容と方法（国語科単元学習について） 第5回 読むことの授業づくり（1）文学的文章指導の授業について 第6回 読むことの授業づくり（2）説明的文章の授業について 第7回 書くことの授業づくり 第8回 話すこと・聞くことの授業づくり 第9回 教材研究の理論と方法 第10回 学習指導案の作成（1）目標設定と指導計画 第11回 学習指導案の作成（2）本時の授業計画 第12回 模擬授業の実施 第13回 模擬授業についての検討と授業の再構成 第14回 模擬授業の実施（前回の検討を受けて） 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教科書に採録されている文章の原典を読んでおくこと						
授業方法	講義を中心としたワークショップ型の授業形態						
評価基準と評価方法	授業内で出題されるレポート、最終レポート・テストによって評価する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	授業内において適宜紹介する						
参考書	授業内において適宜紹介する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法III						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	国語科教育の理論と実践の習得						
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、国語科教育のために、受講生の国語力を向上させるべく、小テストを重ねる。						
到達目標	国語科教育の意義、目標、方法等の理論と指導法の習得						
授業計画	第1回：国語科教育についてこれまで学習した内容の確認と本授業の概説 第2回：作品分析と教材分析 第3回：文学的文章の教材分析 第4回：文学的文章を教材とした授業計画 第5回：文学的文章を教材とした模擬授業 第6回：説明的文章を教材分析 第7回：説明的文章の教材とした授業計画 第8回：説明的文章を教材とした模擬授業 第9回：古典の教材分析 第10回：古典を教材とした授業計画 第11回：古典を教材とした模擬授業 第12回：国語科の「書く」授業分析 第13回：国語科の「話す・聞く」授業分析 第14回：国語科学習者の現状 第15回：授業のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教員を目指す者として、国語力養成のための勉強を重ねる。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40%						
教科書	プリントなど資料を配布する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法						
担当教員	釣 年子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	書道科教育法						
授業の概要	<p>高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法の習得。</p> <p>高校における芸術の授業をどう考え、実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考えてゆきます。国語科書写との関連をはかります。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察します。模擬授業を通じて実践力を高めることをめざします。書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指します。</p>						
到達目標	<p>文科省学習指導要領における書道教育について理解し、実技教育の方法技術などを習得する。教科書の使い方の学習を通して、実技能力の向上を目指す。</p>						
授業計画	<p>1) ガイダンス（書道の先生になるために）      - 教育理念をもとう      - 塾と学校教育</p> <p>2) 書写と書道（1）- 書道教育の歴史      3) 書写と書道（2）- 筆順・反復と模写      4) 書写と書道（3）- 芸術と実用      5) 教育法規・学習指導計画・教科書の扱い方      6) 学習指導要領の検討-書道ⅠⅡⅢ（1）      7) 学習指導要領の検討-書道ⅠⅡⅢ（2）      8) 書写書道専門用語を知ろう      9) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（1）名前を書こう（楷・行・草）      10) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（2）色紙に書こう{かな・草書}      11) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（3）隷書を書いてみよう      12) 臨書について（1）臨と模      13) 臨書について（2）臨書の方法・形態・意義      14) 臨書について（3）古典臨書      15) 臨書について（4）古典臨書</p> <p>-----</p> <p>1) 表現について（1）- 実技力の深化向上      2) 表現について（2）- 臨書と創作指導のあり方（1）      3) 表現について（3）- 臨書と創作指導のあり方（2）      4) 表現について（4）- 漢字仮名交じりの書と古典      5) 学習指導の要素・方法・形態・技術（1）- 指導目標・基準・過程・形態・技術      6) 学習指導の要素・方法・形態・技術（2）- 示範・批正の学習指導      7) 学習指導の要素・方法・形態・技術（3）- 知識・理解の学習指導・評価の実際      8) 評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討      9) 学習指導計画の立案（1）- 年間・単元      10) 学習指導計画の立案（2）- 毎時      11) 各自の学習指導案の検討（1）      12) 各自の学習指導案の検討（2）      13) 生徒による模擬授業（1）      14) 生徒による模擬授業（2）      15) 模擬授業の検討-授業のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技能力の向上は授業外でも努力を望みます。						
授業方法	講義と実技を平行して行います。						
評価基準と評価方法	<p>出席、授業態度、提出作品、レポートなどで判断します。      履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。</p>						

教科書	・高等学校学習指導要領解説芸術編（文科省） ・「書 I」（教育図書）野口白汀
参考書	書名・書道の古典（全三冊） 著訳編註名/対等文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	加藤 巡一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	全ての生徒のよりよい人格的成長を目指して						
授業の概要	現在、社会的に関心の高い学校におけるいじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校等の反社会的問題行動、非社会的問題行動について、教職に就く者に不可欠な学問としての基礎知識、学校の現状把握、問題の解決能力等を高めることを目標としている。特に、ロールプレイングを含む事例研究を多く取り入れ、一つ一つの事例について学生個人個人はどのように考えるのか、学校の現場ではどのように対応しているかについて体験から述べ、比較しながら解決に繋がるより良い対応を考察する。						
到達目標	学校における生徒指導の実態を知り、生徒指導に関する知識、対応、理想の在り方を修得する。						
授業計画	第1回 生徒指導の意義 第2回 生徒指導の課題と実践 第3回 生徒指導の基礎理論（適応の概念） 第4回 生徒指導の基礎理論（適応の過程） 第5回 子どもの自我形成 第6回 生徒理解（心理検査） 第7回 生徒理解（まとめ） 第8回 非社会的問題行動 第9回 不登校への対応 第10回 反社会的問題行動 第11回 いじめの防止と解決 第12回 進路指導の意義と実践 第13回 事例研究 第14回 生徒指導のまとめ 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義、グループ討議						
評価基準と評価方法	試験の結果を主資料(85%)として、発表内容や授業への取り組みの姿勢(15%)を加味する。履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動の研究						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒にとって学校が楽しくなる工夫						
授業の概要	近年、児童・生徒が対人関係に悩んだり集団生活に溶け込めないという状況が多く見られる。また、異年齢集団や地域との交流に関して、地域の持つ教育力は極端に弱くなっている。これらの課題に深く関わる特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的をもっている。そのためには、学級（ホームルーム）活動、生徒会活動及び学校行事等をできるだけ児童・生徒側に企画実践を任せて、教師は距離をおいてそれを見守る指導により、自立した集団と個の育成を図ることが重要である。学生諸君はかつての経験呼び起こしながら、どうすればより有効な指導になりうるのか体験的に研究する。						
到達目標	特別活動の内容を理解し、関連する計画を立てることが出来ること						
授業計画	第1回 特別活動の改訂の経緯と趣旨 第2回 特別活動の目標と意義 第3回 特別活動の内容相互の関連 第4回 学校行事のあり方と実践 第5回 グループ別研究（学校行事について） 第6回 発表と検討（1） 第7回 発表と検討（2） 第8回 生徒会活動のあり方と実践 第9回 個人研究（HRの年間計画） 第10回 学級（HR）活動のあり方と実践 第11回 グループ別研究（学級新聞の活用） 第12回 発表と検討（1） 第13回 発表と検討（2） 第14回 特別活動のまとめ 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義、グループ討議・発表						
評価基準と評価方法	定期試験を主資料（80%）として、研究発表の成果（10%）や授業への取り組みの姿勢（10%）を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう						
教科書	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 著 文部科学省（東山書房） 中学校学習指導要領解説 特別活動編 著 文部科学省（ぎょうせい）						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳教育の研究						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	道徳教育の授業を倫理学から組み立てる						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習指導要領における道徳教育の位置づけについて説明する。</li> <li>2. 道徳教育の実践例を紹介しつつ、倫理的な背景を解説する。</li> <li>3. 指導案の作成、模擬授業の発表、授業への相互評価を学生が行う。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における道徳の役割と指導法を理解すること。</li> <li>2. 道徳教育のあり方を倫理学的視点から反省させること。</li> <li>3. 学習指導要領を参考に授業実践力を養成すること。</li> </ol>						
授業計画	第1回 オリエンテーション：私語の倫理学 第2回 体験した道徳教育：グループで発表 第3回 指導要領にみる道徳(1)：学校教育の役割 第4回 指導要領にみる道徳(2)：他教科との関係 第5回 道徳の教材研究(1)：自己について 第6回 道徳の教材研究(2)：他者について 第7回 道徳の教材研究(3)：自然と環境について 第8回 道徳の教材研究(4)：集団と社会について 第9回 倫理学からみた道徳：身体の自由って本当？ 第10回 道徳の指導案作り：全体計画と個別授業 第11回 模擬授業の実践(1)：自己について 第12回 模擬授業の実践(2)：他者について 第13回 模擬授業の実践(2)：自然と環境について 第14回 模擬授業の実践(3)：集団と社会について 第15回 レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	中学校の「道徳の時間」の指導案をしっかりと準備すること。						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は講義を基本にディスカッションを取り入れます。</li> <li>2. 後半は学生グループによる模擬授業が中心となります。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点30点（コメント、授業貢献など）</li> <li>2. 模擬授業40点（学生同士の相互評価を含む）</li> <li>3. 学期末レポート30点（模擬授業の考察）</li> <li>4. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。</li> </ol>						
教科書	井ノ口淳三『道徳教育』学文社、2007年、ISBN:978-4-7620-1661-5。						
参考書	『中学校学習指導要領解説 道徳編』						